

豊潤の里 だより

産廃は「赤土」にはなりません

～ 地域の絆をこわす産廃処分場 ～

『赤土』の叫び

産廃処分場建設反対実行委員会

顧問 大成 秀和 (赤崎在住)

きれいな海、豊かな自然の中、隣保で助け合い、農業を生活のなりわいとし、苦楽を共有しながら、私たちはこの赤崎の地で平穏な生活をしてきました。

そこに突然、「産廃(産業廃棄物)」の処理施設の建設計画が、栗本ホールディングス(以下栗本HD)より出されました。そのことによって、地域の絆にひびが入り、人々の心が分断されると思うと、非常に悲しく、胸が張り裂けそうです。

「産廃」は「ゴミ」ではありません。「産廃」は有害物質を含むものもあり、その取り扱いは「ゴミ」以上に厳格な基準やマニフェストが法によって定められています。栗本HDは先の会合で「(産廃は)15年で自然に戻る」と説明したけど、それは全く誤りだと思います。なぜなら「産廃」は「赤土」には絶対ならないからです。

みなさま、赤崎の自然を変え、隣保の絆を破壊し、平穏な生活をおびやかす「産廃」は、赤崎には要りません。何としても今の平穏な生活を守りたいと願うのは、多くの住民の願いでもあります。産廃処分場建設には絶対反対です。

どうかみなさま、産廃処分場建設反対に向けての取組に対しまして、これまでと同様、いやこれまでも増してのご支援を心よりお願い申し上げます。

「土地は売らん」。10月5・6日、産廃処分場建設が予定されている土地の地権者の方々を、大成 秀和氏と一緒に自治協事務局長の私も訪問させていただきました。その時いただいた言葉です。4年前に訪問したとき、この方は土地の売却を巡り悩まれていたことを記憶しております。しかし今回、きっぱりと断言されました。私たちはたいへん感激すると同時に心強く感じ勇気をいただきました。今回の地権者訪問で、新たに2人の方から土地を栗本HDに売らない意思表示が行われました。



処分場建設反対の取組を始めて今年で5年目に入ります。その間、私達住民は将来への不安が募り、人間関係も「疑心暗鬼」となり、平穏な生活に暗い影を落としていました。それが、地域の皆様のご支援ご協力のお陰で改善されようとしています。大成氏も書かれている「きれいな海、豊かな自然」「赤土」、そして「隣保の助け合い」「地域の絆」は、私たち住民が昔から大切にしてきた『宝』です。栗本HDによる処分場建設の話がなければこんなことにはならなかったのです。皆様、これまでも増してご支援ご協力をお願いいたします。

木谷の杜氏さんに酒づくりを聞く



全国に優秀な杜氏を送り続けてきた木谷。東広島市では市制50周年に向け、酒と教育をテーマにした市史の刊行を計画。このほど酒の部の編纂担当者による杜氏の皆さんへの聞き取りが行われました。10月12日は峠本忠義さんと幸田邦昭さん（写真左）、10月26日は池田健司さん、土居教治さん、國重弘明さん（写真右）から酒造りの苦勞や喜びなどを聞かせていただきました。

祝!! 神輿行列300周年の秋祭り



10月15日（前夜祭）・16日（例祭）。重松神社の今年の例祭・御幸行事は、昨年と同様に大名行列と子ども神輿はなかったものの、笛と大太鼓が復活し往年の秋祭りにあと少しのところまで近づきました（写真左）。また御旅所では木谷小6年生による巫女舞が奉納されました（写真右）。天気にも恵まれ、穏やかな陽ざしの下、多くの人に見守られた300周年の神輿行列でした。

みんなでビーチウォーク in 安芸津木谷



10月23日に実施された海の生物観察と海洋ゴミの実態を知り対応策を考える催し。スタッフを含め総勢78名の参加者は3班に分かれ木谷地域センターから徒歩で出発。それぞれの活動場所で生物の観察やゴミの収集をしました（写真左は本江地区の海岸でのゴミ拾い風景）。回収したゴミは全部で軽トラック2台分に（写真右）。主催：エコネットひがしひろしま 共催：木谷自治協議会

地球環境を守る “アースキーパー” 誕生



ひろしま自然学校と妙専寺が共催した「アースキッズ・プロジェクト」に木谷小の6年生11名が参加（7～11月で5日間、うち3日間は北広島町で合宿）。地球の生命は太陽エネルギーの恩恵の下、食物連鎖や水・土・空気の各循環を通じて互いに繋がっており（生命のクモの巣）、この自然環境を守るには省エネ・省資源のための行動が大切なことを学びました。写真は子どもたちが“生命のクモの巣”について保護者や地域の人に伝える様子。

おとなの手しごと～裂き織り講座～（木谷地域センター主催講座）



開講日／9月30日、10月14日・21日（講師／光保智恵子さん）。身の回りにある古布や着なくなった服地を使ってコースターやポーチ、テトラポーチ、ペットボトルカバーづくり。手放すかどうか迷っていた衣類が、輝きを放つ作品となって蘇りました。3日間（3回）の開催で延べ31名が参加。

部会活動紹介

福祉生活部会



10/14 木谷小児童の花を育てる活動を支援
子どもたちが花を育てるプランターに、学校関係者と合せ9名で肥沃な土を詰めました。全児童が自分の担当する鉢でパンジーやビオラを育て、来春の卒業式を彩ります。＜木谷地区社協 蛟龍＞

防災安全部会



11/12 あきつフェスティバルで防災をPR
風早自治協の呼びかけに、三津と木谷の自治協が応じ、平成30年豪雨災害・令和3年の三津中心部の浸水の写真などを展示。関心のある人が足を止めて見入っていました。

体育振興部会

9/25 第34回東広島市民スポーツ大会に参加
 この日は陸上の部7種目と球技の部のソフト
 ボールが実施されました。木谷チームは陸上の
 部の5種目に参加。6月5日に行われた球技の
 部と合わせた総合成績は88得点で、全32チ
 ーム（小学校区単位）のうち26位でした。健
 闘した種目もありましたが、4種目について出
 場選手を確保することができなかったことが
 大きく影響しました。



玉入れ（18歳以上で男女不問の5名）
 一人で玉を4つも入れた選手がいて、1位タ
 イに持ち込みました。



大玉ころがし（中学卒業以上の男女各2名）
 今回は男性陣の若手が力を発揮できず。来年は
 リベンジをと意気軒昂でした。



みんなでジャンプ（小4年以上で男女不問の8名）
 健闘しましたが、練習不足の感が否めずか。来年
 こそはと期待しましょう。



ストラックアウト（中学卒業以上の男女各2名）
 なんと組で1位でした。木谷小の先生（女性）
 が多くの点数を稼ぎました。



4×100mリレー（小4～6年の男女各2名）
 結果は4位でしたが、バトンミスもなく完走し
 ました。

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和4年10月末現在	688	1468	719	749
令和3年10月末との比較	±0	-30	-14	-16